



特 許 願

請

① 日本国特許庁

公開特許公報

昭和48年6月8日

特許庁長官 三宅 幸夫 殿

1. 発 明 の 名 称
天井板止着方法

2. 発 明 者

フリガナ (住所) 大阪市生野区中川西1丁目9番12号
フリガナ 氏 名 オオシマツツ
大島 志津

3. 特許出願人

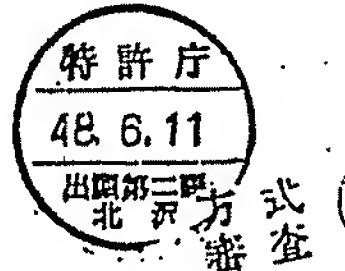
フリガナ (住所) 大阪市生野区中川西1丁目9番12号
フリガナ (法人に於ては名称) オオシマツツ
氏 名 (若し代表者の氏名) 大島金物株式会社
(国 籍) オオシマ ツツ
代表取締役 大島 志津

4. 代 理 人 〒543

フリガナ (住所) 大阪市天王寺区味原町6番地の5
フリガナ 氏 名 弁理士 (5918) 吉 見 勇 三
電話大阪 (702) 1263

5. 添付書類の目録

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 明 細 書 | 1 通 |
| (2) 図 面 | 1 通 |
| (3) 願書副本 | 1 通 |
| (4) 委任状 | 1 通 |
| (5) 出願審査請求書 | 1 通 |



①特開昭 50 - 14119

④公開日 昭50.(1975) 2. 14

②特願昭 48-65080

②出願日 昭48.(1973) 6. 8

審査請求 有 (全2頁)

庁内整理番号

⑤日本分類

5834 22

86(4)E411.1

明 細 書

1. 発 明 の 名 称

天井板止着方法

2. 特許請求の範囲

野縁である断面角型パイプの底板にタツピングスクリユー直径より狭い縦溝孔を設け之れに目地である断面帽型の型钢の天板に適宜の間隔を置いて小孔を穿設し、その各小孔よりタツピングスクリユーを縦溝孔に螺挿なし、野縁と目地の両側縁間に天井板を挟着なすよう成したことを特徴とする天井板止着方法

3. 発 明 の 詳 細 な 説 明

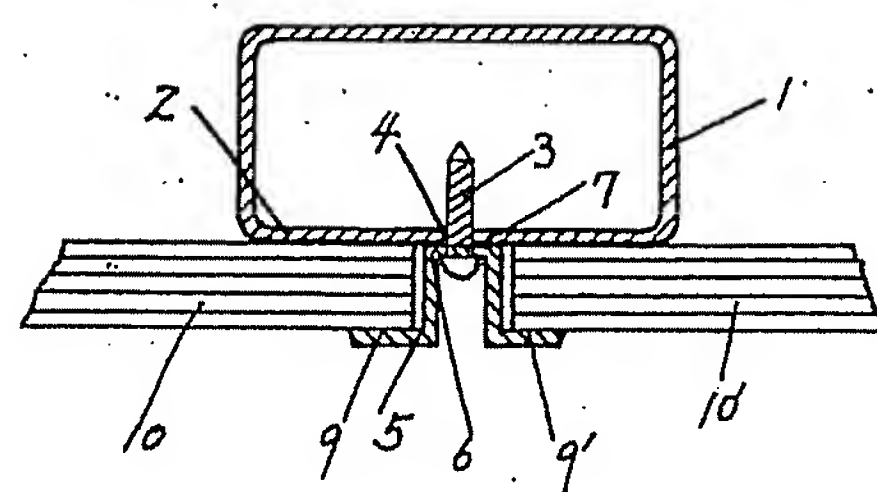
本発明は型钢たる野縁材と目地材との間に天井板を挟持なす天井板の止着方法に関する創作である。

従来野縁である断面角型のパイプに目地である断面帽型で天板に適宜間隔を置いて小孔を穿設の型钢を取り付けるには小孔を挿通してパイプ底板にドリル孔を設け之れにタツプ螺子切りを施し天井板を挟持して螺子紙を螺着して取付

けて居つた、上記方法によるときはその小孔と螺子孔との位置の決定即ちパイプにあらかじめ合致なす小孔を明けておき定位を決定なす必要があり且つタツプ立てを必要とするものである。本発明は之等の穿孔タツプ立てを廃して簡単にタツピングスクリユーを螺挿することに依り野縁と目地を接合し天井板を止着すべく創作なしたもので、之が実施例を図面に就いて説明すれば、野縁である断面角型のパイプ(1)の底板(2)にタツピングスクリユー(3)より狭い縦溝孔(4)を穿設なし、之れに目地である断面帽型の型钢(5)の天板(6)に適宜の間隔を置いて小孔(7)を穿設し、その各小孔(7)よりタツピングスクリユー(3)を縦溝孔(4)に螺挿なし、野縁と目地の両側縁(9)間に天井板(10)(10')を挟着なすよう成したものである。

上発明は上記の天井板の止着方法であるから野縁たる角型パイプ底板にあらかじめ特定巾の縦溝孔を設けあることに依り野縁材に目地材を当てがつて、その小孔にタツピングスクリユーを

螺挿するときスクリューは筒の両側に溝型の螺子孔を刻設し乍ら螺挿止留されるもので、従つて従来の如きあらかじめ目地の小孔に合致なす位置に小孔を設け、之れにタップ螺子を刻設なし置く手数は之れを省略なし得、野縁の螺子孔と目地の小孔の不一致による補修の無駄な手数を排し得、野縁の何れの位置に於いても容易に目地の小孔より縦溝孔にタッピングスクリューを螺着なし得天井板はパイプ底板と目地の側縁間に確実に挾持なし得るもので天井板止着を容易に簡単に施行なし得業界に貢献する所大なる発明である。



4. 図面の簡単な説明

図面は本発明の実施例を示す縦断面図である

- | | |
|--------------------|--------------------|
| (1).....パイプ | (2).....底板 |
| (3).....タッピングスクリュー | |
| (4).....縦溝孔 | (5).....型鋼 |
| (6).....天井板 | (7).....小孔 |
| (9) (9').....側縁 | (10) (10').....天井板 |